



フェノバルビタールによる安定で長期の治療が血清アラニンアミノトランスフェラーゼおよび γ -グルタミルトランスフェラーゼ活性に及ぼす影響

KEYWORDS// フェノバルビタール, ALT, GGT

フェノバルビタール(Phe)は一般に安全で効果的な薬剤であると考えられている。しかし、肝毒性は稀ではあるが致命的な副作用であり、安定で長期の単一療法を受けている患者における血清肝酵素活性に関する情報はほとんどない。

著者らは Phe 治療を長期間継続的に受けている成人外来患者 128 人における ALT(alanine aminotransferase)および GGT(γ -glutamyltransferase)の血清中活性を Phe とともに測定した。対照は年齢・性を一致させた継続的に受診している外来患者 2,468 人とした。Phe 治療者の血清 ALT および GGT 活性は対照

者よりも高値であった。また、GGT 値は異常であるが ALT 値は正常である患者の割合は対照者に比べて多かった。最適以下濃度と治療濃度の薬剤投与による患者間に平均活性および ALT または GGT の異常割合に有意差は見られなかった。この結果は長期の Phe 治療が血清 GGT の上昇と関係していることを示唆するものと考えられる。

(Lippi G, Montagnana M, Salvagno GL, et al : Influence of stable, long-term treatment with phenobarbital on the activity of serum alanine aminotransferase and gamma-glutamyltransferase. Brit J Biomed Sci 65 : 132-135, 2008)

(埼玉県立大学保健医療福祉学部 鈴木優治)